

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100469		
法人名	特定非営利活動法人よつば荘		
事業所名	グループホームよつば荘		
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦字船入2番地61		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 1 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2 年 12 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットの小さい事業所だが、小さい事業所がゆえに利用者様とのコミュニケーションはとて取りやすく、小さな変化にも気づくことができると感じている。担当者以外の職員も何か訴えがあれば耳を傾けてすぐに対応できるように、職員間での報告・連絡・相談・情報の共有を大切にしている。また、料理の宅配サービスなどは利用せず、全て手作りで提供している。ご家族様から頂く野菜も多く、それを使って利用者様と一緒に料理をする機会も増やしている。家庭での何気ない日常が利用者様にとって認知症の進行を遅らせるとともに、安全で楽しい生活を送って頂けるように毎日工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小牛田駅から徒歩5分の町中に開設して15年経つ。近隣住民が運営推進会議のメンバーの一員で、ホームに対する理解者が多く協力的である。ボランティアの民謡教室を入居者は楽しみにしている。理念の「ゆっくり・ゆかいに・ゆたかに」をケアに活かし、入居者一人ひとりに目を配り、個人のことを大事にしたケアをしている。職員がゆっくり急がずにケアすることで、気持ちが入居者に伝わり笑顔が増える。食事は全て手作りで提供され、出来立ての美味しい料理が喜ばれている。外食や行事食、みんなで作る料理など、変化を持たせるよう工夫している。目標達成計画に掲げた防災訓練の日程は、年間行事計画に組み込んだ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームよつば荘)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者個々の生活に合わせた暮らしを大切にしたいという思いから「ゆっくり・ゆかいに・ゆたかに」を継続して理念とする話し合いを行った。	職員全員で年度末に理念の振り返りをし、継続とした。職員は理念に沿ってゆったりと動いているので、ホーム全体がゆっくりとしたペースになり、入居者はゆたかに過ごしている。理念は玄関に掲示されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウイルス感染防止の為、ほとんどの行事を行わなかったが、近隣住民との交流が途絶えないように挨拶状を送った。	近隣の住民との繋がりが出来ており、ホームに理解を示してくれている。スマイルカフェに近所の方とその友人が参加していた。クリスマスに近所にシクラメンの鉢をプレゼントするのが恒例になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で利用者の認知症の症状を話し、理解して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中の活動報告の際、地域の方からのレクリエーション活動の提案などを受けることがある。	偶数月に開催している。地域包括職員や行政区長、民生委員、地域の方、家族が参加する。レクリエーション活動に使う材料の通販のカatalogを教えてもらったり、コロナ禍での家族との面会方法を相談した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、グループホーム連絡会にも参加している。コロナ禍での事業所の対応方法などを聞き、よつば荘で生かしている。	担当者とは更新手続きや区分変更等で連絡を取り合っている。処遇改善加算について相談した。コロナ禍での運営推進会議のあり方を相談し、書面報告を3回実施した。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会の定期開催を行い、職員に周知・徹底するように心がけている。	3か月ごとに委員会を実施し、職員に回覧して周知している。外出傾向のある方は、玄関からのみ出入りできる部屋にしている。「帰りたい」と言われた時は、職員と一緒に外に出てしばらく歩く。玄関は夜のみ施錠している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実際に事件になったニュースを取り上げて、身体拘束適正化検討委員会の中で、勉強する機会を設けている。申し送りの際にも言動や行動に気を付けるように伝えている。	不適切な言葉遣いがあれば、管理者や主任が注意をしている。入居者から暴言があれば、管理者が間に入ってフォローし、職員の精神的な負担を軽減している。研修会は身体拘束と併せて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要とする利用者がまだ見受けられないが、職員間で話し合うことがある。また、近隣住民から相談されたこともあった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、文章等により説明し、理解を頂いている。普段の訪問時にも家族からの要望を聞き、改善に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のお知らせは利用者家族全員に配布しており、参加をして頂くようになっている。家族からの意見を求め、改善出来ることがあれば反映するように心がけている。	運営推進会議に家族が参加し、要望を聞いている。半身麻痺で足の血の巡りが悪い入居者の家族から、寝かせたときに足を高くするよう要望があり、対応した。外出の要望には駅前までの散歩をした。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング、申し送りの中で一人ひとりの意見を聞きながら問題解決に取り組んでいる。	職員の意見を聞いて、カラオケを金曜日に変更した。糖尿病の方の飲み物の砂糖を控えるように提案があった。入居者の電気毛布の温度調節を夜間の見守りで下げるようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員評価を行っている。目標に到達出来た者や、管理者が見て能力の上昇した職員には処遇改善加算手当により昇給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を採用し、資格取得や研修等により個人の給与を上げていけるように、シフト整備などサポートしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美里町主催のグループホーム連絡会には必ず出席するようにしている。コロナ禍での事業所のあり方を意見交換した。	各種研修会やフォローアップ研修に参加している。美里町の6カ所のグループホームと交流がある。規模の大小はあるが、それぞれの良さを認識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から聞き取りを行い、利用者の生い立ちや嗜好・希望などの聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の日に、入居前の生活の様子や、家族を困らせてしまった出来事などの聞き取りもしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その利用者の課題を見極め、ケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような雰囲気大切に、必ず利用者全員と顔をあわせて会話をしている。買い物や散歩の希望があれば出来るだけすぐに答えられるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のことだけに限らず、家族の悩みにも寄り添い、お互いが良くなるように関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブしながら利用者の地元を回ることもある。また、買い物支援の中でお知り合いに会うこともあり、少々立ち話などしているときもある。	衣料品店や本屋など馴染みの店に出かけている。親戚の家に外泊する方もいる。昔の職場や子供の頃に遊んだ隣町など、懐かしい場所に行って楽しんでいる。馴染みの床屋が訪問し、関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行からトラブルも見られるが、個々に職員が居室を訪問し、話を聞いてあげている。安心して、また仲良く出来るようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去となった利用者については、協力医療機関とのつながりから状況を報告されることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成に伴い、趣味を知りこれからも続けていけるように支援している。	「何かしたいことがありますか」と入居者の思いを聞き、家族にも協力してもらい、希望に近づくよう工夫している。松前漬けと一緒に作って食べたり、干し柿作りをした。思いは連絡ノートで職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴が分かる基本情報を作成し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態変化を観察・記録し、現状に合ったケアが出来るように努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアを通して、スタッフとも情報交換し、本人の思いを引き出しながら、定期的にモニタリングを行い作成している。	ケアマネが計画書を作成している。片麻痺の方が竹刀を振りたいとの希望に、着替えるとき手を伸ばすなど日常生活での介護計画を作成した。入居者の体力に応じたりハビリ計画を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートを見ながら、身体面・精神面に変化はないかカンファレンスし、その日の対応を検討してケアにあたっている。また、課題の検討も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況や変化に気づき、本人の意思を尊重して対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	残存能力を活かし、出来ることを奪わないように支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者を中心に付き添い受診しており、夜間・休日・緊急時の受け入れもある。歯科往診は月1回あり、定期的に受診している。	8名が協力病院に、1名がかかりつけ医に月1回通院している。全員に管理者が付き添い、医師と情報を共有している。訪問歯科は3名が受診している。認知症の受診は専門医に通院している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも看護師に報告し、適切な措置を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変があれば、土日、時間外に関わらず受診しており、十分な理解と協力があると確信している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合について、希望があれば同意書を交わしている。終末期に再度意思確認し、同意書を交わす。本人・家族が望めば看取りを行える環境にある。	看取りに関する方針を明文化し、家族に説明している。これまでに2名の看取りをし、現在も本人や家族の希望があれば看取りを行える環境にあるが、病院を希望する家族が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師からの助言を受け、日頃からミーティングなどで話し合っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民を交えた訓練を年2回実施している。非常用食料・備品等を準備している。	夜間想定を含む、年2回の避難訓練を実施している。目標達成計画に基づき、年度初めに具体的な日程を決めた。地域住民の方には避難場所での見守りをお願いしている。非常用食料は3日分準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	掃除をする時は本人に声がけをしてから入室するようにしている。これまでの生活習慣を尊重し、食事や就寝のタイミングなど本人のペースを崩さないようにしている。	名前にさん付けで呼んでいる。居室に入るときはノックし、返事がない時はドアについている小窓で確認している。入居者同士のトラブルがあれば、座席を離すなどして対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話してくれたことを否定せず、傾聴するようにしている。「どちらがいいのか」というような質問をし、自己決定してもらうように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事やレクリエーション・入浴など、行うことが決まっている日は本人の意向を確認してから参加してもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んでもらっている。新しい服が欲しいと希望があれば、家族に確認し、買い物の同行支援を行っている。散髪・毛染めも定期的に行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が声をかけ、野菜・果物の皮むきをして頂いている。漬物なども付き添って一緒に作っている。利用者の出来る範囲で片付けもして頂いている。	食事は全て手作りで、美味しい香りが漂い入居者から喜ばれている。刺身や味付けご飯が人気で、誕生日や花見、クリスマスには行事食を取り入れている。餃子やおはぎなどを職員と一緒に作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食べた量・水分量を記録している。本人の健康状態を確認し、調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時、声掛けや一部介助にて対応し、毎食後、自主的に行っている利用者もいる。毎朝口腔体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録し、声かけ誘導している。夜間は暗くて危険性がある為、居室にポータブルトイレを設置している。	車いすの方が3名いるが、日中は全員がリハビリパンツを着用し、自力や職員の声掛けでトイレに行く。夜間は自力やポータブルトイレ、オムツ等個別に対応し、安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食には必ずヨーグルトを提供し、水分もこまめにとるようにしている。毎朝体操を行うので、腸への刺激を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴だが、本人の希望やその時の状況で増やしている。生活習慣でシャワー浴だった方は継続している。一番風呂、長湯、湯温等好みに合わせている。背中、足指等出来ない部分のみ介助を行っている。	入浴日が週4日あり、希望の日に週2回以上の支援をしている。拒否する方の入りたくない要因を推し量るようにし、日を改めたりして対応している。個人用のシャンプーや保湿クリームに対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、それに沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化は日々申し送りを行っている。服薬ファイルを作り、職員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや箒を使っての掃き掃除など、役割を持っていただいで日常的に行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ対策のため、外出支援はほとんど行わなかったが、散歩は天気の良い日を見計らいながら行った。職員が2名付き添い外の紅葉の様子を楽しんだ。	近所のスーパーや衣料品店に出かけたり、ホーム周辺のドライブで紅葉を楽しむなど、気分転換をはかる配慮をしている。色麻町や加美町など入居者の地元や松島の円通院、加護坊山に外出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の症状に応じて金銭管理をしてもらっている。希望があれば職員が付き添い、買い物の外支援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時、電話の貸し出しや手紙の投函を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、台所にもすぐ行き来できるようにになっている。季節ごとの花やかかわいらしく飾りつけをし、目でも楽しんでもらっている。	今年の目標や一句を書いた色紙や、紙皿で作ったクリスマスリースを壁面に飾っている。リビングには時計やカレンダーが見やすい位置に置かれ、雑誌や本、新聞が自由に読めるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはカラオケを設置しているので、好きな時に歌うことができる。少人数でランプゲームをしたり、会話を楽しんで過ごしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品で過ごしていただいている。家族の方とも相談しながらその都度対応している。	居室には家族の写真や仏壇、位牌、テレビ、家族からのプレゼント、花等がある。部屋の掃除は担当職員と入居者で行っている。介助をしやすいするために部屋の模様替えをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に図書コーナーを作り、週刊誌や文庫本などを置き、好きな時に読書をしてもらっている。歩行バーを設置して、歩行訓練を行っている。		